

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102997
法人名	医療法人岡本医院
事業所名	グループホームみつはま
所在地	愛媛県松山市住吉2丁目2番21号
自己評価作成日	平成24年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○グループホームみつはまは、“いつもいっしょ、同じ屋根の下で、心と心で行きましょう”・・・をスローガンに、入居者の方々とスタッフが仲良く、助け合って生活していくことを大切にと努めています。母体は岡本医院であり、24時間往診も可能です。皆さん先生を信頼し、安心して生活されています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●バザー等の公民館行事時や幼稚園の発表会等にも誘っていただき、利用者と職員で出かけていき、地域の方達と楽しく交流されている。お祭りには、神輿が来てくれて、「祭りの歌」を歌ってくれたり、お祓いをしてくださる。事業所のある地域は、高齢者世帯が多く、ご近所の方から、「一緒に起こしてくれませんか」等と、ご自宅での介助の手伝いをお願いされることもあり、職員が手伝いに行かれています。
●管理者は、利用者個々に毎月便りを書き添えて、ご家族に送付されている。遠方に住むご家族には、行事の写真等を同封し、ご本人の表情を見ていただくこともある。お花見等の外出行事は、ご家族にも案内し、数名の方が参加されている。年末には、ご家族と職員で忘年会を行っておられ、レストラン等で食事しながらお話しする機会を作っておられる。ご家族からは、感謝の言葉も多く聞かせてもらっているようだ。ご家族は、仕事の行き帰りに立ち寄られたり、毎日、夕食の食事介助に来られる方もいる。調査訪問時にも、数名のご家族が、「こんにちは」と事務所に声をかけて中に入っていくかれた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームみつはま

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 宇野 明美

評価完了日

平成24年7月26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 同じ屋根の下に住む地域の住民として、普通の暮らしを続けていけるように皆で支援に当たっている。 (外部評価) 事業所は、「同じ屋根の下、互いを尊重し、認め合い、助け合い、楽しく生活する」という理念を掲げ、地域の方達とも「同じ屋根(地域)の下」で「助け合ったり、楽しく過ごしたい」という思いを持って、おつきあいをすすめておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 玄関には鍵をかけず、特別に目だつものも置かず普通の家のたたずまいにしており、地域の方と違和感なく暮らしている。 (外部評価) バザー等の公民館行事時や幼稚園の発表会等にも誘っていただき、利用者と職員で出かけていき、地域の方達と楽しく交流されている。お祭りには、神輿が来てくれて、「祭りの歌」を歌ってくれたり、お祓いをしてくださる。事業所のある地域は、高齢者世帯が多く、ご近所の方から、「一緒に起こしてくれませんか」等と、ご自宅での介助の手伝いをお願いされることもあり、職員が手伝いに行かれている。地域の商店から米や味噌の食材を配達してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎日の散歩をとうして、認知症になってもこのように普通の暮らしが続けられることを地域の皆さんにわかっていただけるように示していきたいと考えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の方の生活の実際、スタッフの支援の姿を皆さんに報告し話し合いをおこなっている。住宅密集地にあるホームとして、防災に関する話し合いを何度か行い、地域の方との協力体制もできてきている。</p> <p>(外部評価) 会議には、民生委員や地域の方等に参加していただいている。ご家族には、来ていただけそうな方に案内をされており、毎回、5名ほどのご家族が参加してくださっている。会議は、議題を決めて行われ、職員が研修報告したり、評価機関からの「家族アンケートのコメント抜粋」を資料にして、「利用者やご家族の思いについて」話し合われたこともある。</p>	<p>管理者は、会議の内容について、少々「マンネリ化してきているのではないか」と感じておられる。今後は、茶話会等も採り入れ、地域のいろいろな方にも気軽に参加していただけるよう、取り組みたいと考えておられた。現在、高齢化がすすんでいる地域の中にある事業所として、地域からの要望を会議を通して探り、今後の活動に採り入れていかれてはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の方に関する相談ごとなどあれば常に連絡を取り相談させていただいている。事務的なことでも相談、確認などさせていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、介護報酬の改定について事業所から説明した際には、市の担当者が補足説明してくださったり、7月の会議時には、熱中症に気をつけるようアドバイスをいただいた。福祉課の方には、生活保護受給者の経済面等について相談しながら支援されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 自由にその人らしくを大切に日々の支援に当たっている。身体の拘束をして自由を奪うことがいかにしてはならないことが常に話し合っている。その人その人の個性を大切に組み組んでおり代表者もそのことはよくわかってくださっている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、利用者がひとりで玄関から出かけていかれたが、職員は、少し離れた場所から見守っておられた。ご自宅が近い方は、ひとりで自宅に帰り、お花の手入れをされ、一服してから事業所に戻って来られる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないこと、勉強会などで常に話し合っており、職員が意識を共有し、実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業や制度について、勉強会で確認し話し合った。実際、家族の方の依頼にて、成年後見制度の利用にいたり手続きを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用されようとするときの不安な気持ちを受け止め何でも話していただけるように相談に乗っている。解約に関しては遠慮はいらぬこと利用される方の思いが一番であり、その時は相談に乗ることお話ししている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、お便り、電話にて、その都度意見、要望をお聞きしている。 運営推進会議には家族の方みなさんに参加を呼び掛け出来るだけ参加していただいている。その時外部の方とも意見交換をしている。 (外部評価) 管理者は、利用者個々に毎月便りを手書きして、ご家族に送付されている。遠方に住むご家族には、行事の写真等を同封し、ご本人の表情を見ていただくこともある。お花見等の外出行事は、ご家族にも案内し、数名の方が参加されている。年末には、ご家族と職員で忘年会を行っておられ、レストラン等で食事しながらお話する機会を作っておられる。ご家族からは、感謝の言葉も多く聞かせてもらっているようだ。ご家族は、仕事の行き帰りに立ち寄られたり、毎日、夕食の食事介助に来られる方もいる。調査訪問時にも、数名のご家族が、「こんにちは」と事務所に声をかけて中に入っていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する職員の意見や提案はよくあり管理者より代表者に意見を上げている。可能な範囲で反映してきているが、代表者の会議への参加は、あまりしていただけないのが現状である。	
			(外部評価) 利用者の介護度が重度化してきたこと等から、職員は、代表者に設備面の改善等を提案しているところであるが、代表者と職員が話し合うような場等は少ないようであり、職員の提案の反映までには至らないような面もあるようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 通常の勤務時間以上に働く必要があった場合、時間外手当がついている。 研修参加は、労働時間として取り扱ってもらっており時間外になった場合、時間外の手当がつかないなどの環境・条件の整備あり。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を認めてくださっているが、特に進めているというわけではない。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者や職員が、取り組むことに関して反対はないが、特に進めているわけではない。	
			(外部評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安なこと、解らないこと、してほしいと思っていることを何でも話していただけるように努めている。サービス内容については解りやすく説明し、本人のことにっては、本人が話して下さることに耳を傾けるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス内容を分かりやすく説明している。 困っていること、不安に思っていることを何でもお聞きし、安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた段階で、ほかのサービスを受ける方法もあると思えば、そのサービスについてもお話し、ゆっくりと相談に乗って行くようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) そのように努めている。食事の下ごしらえをしてもらったり、味見をしてもらったり、洗濯物をかたずけてもらったり、不安な方に寄り添ってもらったり、お互い助け合って生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、お便り、電話にて、今の様子をお伝えし必要な相談をさせていただいている。行事にも参加していただくなど、お互いに支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人が訪ねてこられたら、遠慮なく過ごしていただけるように配慮している。訪ねて行きたい方があれば出かけたり、連絡して会いに来ていただいたりしている。 (外部評価) 事業所のある地域で生まれ育った利用者の方も多く、散歩時等には、顔なじみの人が声をかけてくださったり、ちょっと立ち止まってお話をすることも。以前から注文している好みのお茶を、お茶屋さんに届けてもらって、お茶を楽しむことを続けている方も。散歩途中に、馴染みのお寺をお参りしたり、見慣れた風景でもある船着場を見に行ってみることもある。友人が訪ねて来られておしゃべりを楽しまれたり、「帰りたい」と希望する方の中には、県外のご自宅にご家族と3ヶ月に1度ほど帰って、過ごされる方も。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) そのように努めている。 集団生活なので、もめ事もあるが、それは、普通の家族でもあることでもあり、お互いがいたわりあって生活していけるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長引いて利用が終了しても必要であれば今後のことについて相談に乗ったり支援したりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) そのように努めている。 月一回のケアプラン会議にて検討している。 日々の申し送り時気付いたこと、問題があればその都度対応している。 (外部評価) 利用者の中には、ご自分では意向等を言い表せない方もおられるが、職員は、利用者の「笑顔」や「難しい顔」等の表情から思いや意向をくみ取るように努力されている。前回の外部評価を受け、事業所自身で、「ご本人の思いや意向の把握につながる記録がわかりづらい」ことに気付かれ、新たに、「経過記録」の様式を作り、管理者は、日々の記録から思いや意向につながる情報をまとめるようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日ごろの会話などから過去の生活や、趣味などを知り、今の生活でも出来ることは応用し、実践している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 現状の把握には日々検討し把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) そのように取り組んでいる。 健康管理・医療的管理については、主治医と相談し指示もいただきながら介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 基本的に、3ヶ月に1度、介護計画の見直しをされている。又、毎月担当職員と管理者で、モニタリングを行っておられる。「楽しみを見つけない」という思いのある方には、以前からの習慣等をもとに、お寺参り等の外出のほかに、趣味でされていた習字等にもかかわれるように、今後、介護計画に採り入れ、支援していきたいと考えておられた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) そのように取り組んでいる。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 充分とはいえないかもしれないが、そのように取り組んでいる。(カットサービスの利用、受診の付添い、緊急時対応、書類提出の代行など・・・)</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事に参加したり、幼稚園の子供たちと交流させていただき楽しい時を過ごしたりしている。近所への散歩で皆さんと仲良くなり、顔とか様子を知っていただいている。地域の米屋、醤油屋、電気屋、クリーニング店など顔見知りあり。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) そのように支援している。	
			(外部評価) 入居時に、医師である代表者より、母体医院がかかりつけ医となることを説明されている。これまで診てもらっていた医療機関とも連携を取り、職員が支援して受診されることもある。かかりつけ医は、一週間に1度往診に来られている。又、体調の優れない利用者には、いつでも往診に来てくださり、その際には、他の利用者にも声をかけられ、利用者は代表者が来られることをとても楽しみにされているようだ。歯科や眼科等の専門医への受診時には、ご家族に連絡して、基本的には職員が同行されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) その様に支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) そのように行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) そのように取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では、開設当初より看取り支援に取り組んでおられ、多くの方が事業所で最期を迎えられた。入居時に、看取りの支援についてご家族に説明され、ほとんどの方が事業所で「最期まで」と希望されるようだ。終末期には、ご家族と医師である代表者、管理者が、ご本人の希望を踏まえた上で、今後のことについて話し合っておられる。お元気な頃、終末期のあり方について、「いろんなものをつけてほしくない」と、望まれていたが、口から食事することが難しくなった際、ご家族がご本人の「もっと生きたい」という意思を確認され、胃ろうを造設した例もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は定期的には行っていない。 急変に際しては、自分で勝手に処置することは禁止しており、まず、Dr(代表者)と管理者に連絡を入れ指示を受け対応することになっている。必要時Dr往診し管理者も対応することになっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議にて、何回か災害対策について話し合った。 地域との協力体制が出来てきている。 全職員が方法を身につけているとはいえない。今後も訓練の積み重ねが必要と思っている。 (外部評価) 昨年12月に、スプリンクラーと自動火災通報装置の設置が完了されたことから、同月の運営推進会議において、その旨を説明した上で、消防署の協力のもと、避難訓練を実施された。地域の方やご家族等、出席者に訓練の様子を見ていただいた。地域の方が、タオルとゴミ袋を利用して作る「防災ずきん」を持参して、作り方を教えてくださった。地域の自主防災訓練時には、職員が参加されて、地域の方と「お互いに助け合いましょう」と声をかけ合われた。	2階の居室には、ベッド上で長時間過ごす状態の利用者もおられ、利用者の重度化のこともあり、いざという時、職員のみで利用者を避難させることには難しさも感じられる。又、管理者は、地域に高齢者が多いことから、災害時には、「こちらからも助けに行かないといけない」と考えておられる。今後、運営推進会議等も活かして、事業所から地域に向けて協力していただきたいことを伝えたり、地域の要望もお聞きしながら、協力体制作りを具体的にすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) それぞれ個性があり難しい面があるが、ミーティングの場などで、職員同士入居者の情報を共有し、プライバシーを尊重した生活が送れるよう心がけている。 (外部評価) 前回の外部評価を受け、事業所では、利用者のできることはなるべく自分でできるよう、職員は「できるだけ見守る」よう支援することに取り組まれている。ベッド上で長時間を過ごす状態の利用者に職員は、ご本人の居室を頻回に訪ね、声かけやスキンシップすることに努めておられる。調査訪問時、居室を訪ねた際、ご本人は笑顔を見せてくださった。廊下の一角のスペースのある場所に、排泄用品などの段ボールがまとめて置かれていたが、収納や整理に配慮されてはどうか。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情の観察、声かけなどの働きかけにて、本人の希望があらわせられるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけそのように支援しているが、今の職員体制では、困難なところもみられる。食事作り、入浴の介助などあり、職員側の都合が優先されてしまっている場合見られる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) そのように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 皆さん食事を楽しみにされている。それぞれの方の好みも取り入れた食事を用意させていただいている。おやつ、水分もそれぞれの方の好みを考慮したものを用意させていただいている。職員は、利用者の方と一緒に食事をとっている。 (外部評価) 職員の退職等もあって、今年に入ってから、日々の食事作りや買い物を行うことが難しくなり、昼・夕食は業者から調理された食事が届くようになってきている。朝食と、ご飯と汁物は事業所で作っておられる。食事支援を変更した点については、4月にご家族に説明され、7月の運営推進会議時にも報告されている。事業所では、月に2～3度近くの食堂から、オムライスやラーメン等、利用者のお好きなものを注文して出前してもらっている。事業所では、できるだけ口から食べていただけるよう支援に試行錯誤されている。ミキサー食で飲み込むことが難しくなった状態の方に、少しチョコレートを入れると口の動きが出て、飲み込むことがスムーズになった事例もある。利用者が毎日の食材の買出しや調理にかかわるような機会は少なく、管理者は、「職員が増えたら、手作りの食事に戻していきたい」と話しておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 特に気を使って行っている。必要な方には、食事量、水分量のチェック表などを使い実践している。心配な点あれば、主治医に報告、相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝、夕の口腔ケアは実施しているが、他は本人に任せている。ケアに拒否してしまう方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
				そのように支援している。
			(外部評価)	
				入居当初は、紙パンツやパッドを使用されていた方も、「食前に必ずトイレ誘導」したり、利用者が尿意や便意を感じた時の、立ち上がろうとされたり、お腹まわりをさする仕草をする等、利用者個々の排泄サインを掴み、トイレ誘導されて、排泄の失敗がほとんどなくなったという事例が複数ある。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
				そのように取り組んでいる。
			(外部評価)	
				基本的に決めているが、その時の状態によったりタイミングに合わせての対応もある。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
				基本的な決まりがあるが、その時の状態によったりタイミングに合わせての対応もある。
			(外部評価)	
				以前は、2日に1度の入浴を支援されていたが、職員数のこともあって昨年の暮れ頃より、3日に1度の入浴となっている。浴槽に入ることが難しく、シャワー浴のみの方がおられる。又、シャワー浴も難しい利用者もおられ、医師と相談して3日に1度清拭をされている。部位によって、汚れたりした時は、ベッド上で洗い流す等して気持ちよく過ごせるように支援されている。
				居室のある2階にも浴室があるが、設備面の制限があり、現在、使用することができない状態にあるため、座位を保つことが難しい利用者の方を1階にある浴室にお連れすることが難しいようだ。入浴は、利用者の生活の質にかかわる大切な支援でもある。法人も含めて環境面について話し合い、利用者主体の入浴支援に取り組めるよう、整備をすすめていかれることが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
				そのように支援している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) そのように努めている。症状の変化があれば、看護師、主治医に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) みなさん 介護度の高い方が多くなり判断できにくいがそのように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) そのように支援しているが、自分では動くことのできない方が多くなってきている。毎日の散歩時間あり、誕生日には、それぞれの希望に沿って、外出も行っている。	
			(外部評価) 歩ける方は、毎日のように散歩等に出かけておられる。調査訪問時、帽子をかぶり、職員と一緒に図書館から戻って来られた利用者の様子がうかがえた。図書館で新聞を読まれたようだ。当日、お誕生日の方がおられ、夕食は中華料理店に職員と出かける予定になっており、ご本人は、「酢豚を食べにいく」ことを笑顔で話してくださった。三津の花火大会には、2名の利用者が職員と一緒に見物に行かれた。目の不自由な利用者の方は、週に1度、ガイドヘルパーに支援していただいて、喫茶店に出かけ、お好きなコーヒーを楽しまれている。重度化に伴い、ベッド上で長時間過ごす利用者もおられ、職員は、居室の換気を心がけて、外の風を採り入れるよう配慮されているが、設備面等の難しさもあって外に出ることが難しいようである。設備面等難しいこともあるだろうが、医師やご家族、職員でアイデアを出し合って、利用者らしく最期まで暮らせるような支援に工夫されてほしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望のある方は、そのようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) そのように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 建物自体は、北欧の優しい色使いで刺激が少ないものである。室内には季節の花を飾り季節感を取り入れている。皆が過ごすところや廊下にイスやソファを置いている。</p> <p>(外部評価) 廊下や居間の壁には、外出や行事等の写真が貼っており、テーブルには、ガラスの花瓶にバラやガーベラを生けておられた。窓からの日差しは、ブラインドやすだれを使って調節されている。椅子の足は、テニスボールを使って音が響かないように工夫されていた。調査訪問時、食後、居間のソファでうとうとしている方や、椅子に座ってお好きな演歌を聴く方、又、入浴後、廊下にあるソファでひと休みされる方の様子がみられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) イスやソファが、所々にあり、自由に好きな場所で過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 皆さんそのようにされている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時には、ラジオで高校野球の中継を楽しんでいる方もおられた。職員は、色画用紙を使って、ご家族の写真や、妹さんからの絵手紙を飾り、壁に大切に貼っておられた。位牌や遺影、テレビや冷蔵庫等を持ち込まれている方や、観葉植物を置いて水やり等の世話をされる方もある。居室のベッド上で、経管栄養の注入をされている方や、酸素吸入をされる方もあり、又、ベッドサイドに吸引器が置かれてある居室もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 普通の家に近い造りなので自分らしく過ごしていけると思うが、反面車イスでのトイレ利用は不便である。障害のある方にとっては、暮らしにくい部分もあり。</p>	